

「名水の米」

栃木県塩谷郡塩谷町 青木容子  
母は三角おにぎり握れない。真丸などは  
人の園りとなる。

二十代の頃、友人と日光霧降の丸山にハイキングに行った。お昼は例の母のおにぎり。下野新聞に包まれコンビニのそれの三倍はある。砲丸投げの玉のようだった。

「恥ずかしい」おにぎりなのだが、頂上の景色と山の匂いの中では妙にうまい。

翌年の男体山の山開き登山。母のおにぎり。高い山だからとさらに大きくなっていく。ところが冷たくても固くても砲丸の玉でも何ともうまいのだ。

おいしい食事は、食べる相手とシチュエーションで決まると聞く。この方程式の答えが母のあのおにぎりだったのだ。

家からは日光連山、高原山、那須連山が全て見えるのが私の一番の自慢だ。我々のシンボル高原山の中腹に名水白選に選ばれきき水



日本一の尚仁沢湧水がある。そのキセギの水は自然からミネラルをもらい荒川水系に流れ田を潤しているのだ。

山の日に制定に尽力された船村徹は我町出身の人気作曲家だ。彼の演歌は栃木なまりでできているという。そのなまりこそ彼の曲の「あじ」であり「うま味」なのだ。

船山さんは作曲する時ふるとの山、川を連想していいそうだ。その尚仁沢の水と高原山のブナの原生林からの風とで育った米が、

まずい訳がない。彼と同じ水と空気が育った我町の米も栃木弁でなまっているかもしれない。高原山からのおくり物「尚仁沢」の水で作ったものの集大成が、我町の米なのだ。

年々、米がうまく甘く感じる。これからはんなうま味の米に出会えるが、田んぼに囲まれ、荒川と鬼怒川の川間に住み、季節の移り変わりを稲から教えられる。毎日、高原山を見上げ、あのあたりが尚仁沢と意識しつつ、米のこれからのうま味に大いに期待している。

栃木県塩谷郡塩谷町大宮 八五九 TEL 0283-31-1111  
青木 谷子 63才